

はあとふる

Info. 20



8月1日（木）に、地域支援センター特別支援教育研修会を実施しました。今年度は、星槎大学大学院の阿部利彦先生をお招きし、「授業のユニバーサルデザインと合理的配慮」という演題で講演していただきました。

地域の小・中学校の先生方を中心に、約50名の方々が参加されました。講演は、具体例が多く、簡単な演習もあり、大変わかりやすくあっという間の時間でした。参加者の方々は皆、2学期からの授業に生かそうと熱心に参加されていました。



隣同士で、教室環境や授業の工夫について話し合っています。

Point

教育のユニバーサル・デザインとは

より多くの子どもたちにとって分かりやすく、学びやすく配慮された教育のデザイン

- 授業のUD化・・・刺激量の調整、焦点化、発問の工夫、ルーティン化など
- 教室環境のUD化・・・物の定位置化、学習内容の明記、役割分担の明記など
- 人的環境のUD化・・・わからないことをわからないと言える学級づくりなど

児童・生徒一人一人のつまずきを把握し授業をデザインしていく

<授業UD3つの柱>

- 視覚化：絵や写真を見せるだけでなく、ひきつけるために「いつ、どうやって」見せるかがポイント。
- 焦点化：ねらいを絞り込み「これならできそうだ」と見通しを持たせる焦点化。焦点化には、発問が大切。
- 共有化：自分だけでは見つけ出せなかった仲間の多様な考えを味わえる機会、集団を作ることが大切。

「わかりやすい授業」づくり、「安心できるクラス」づくりが、子どもたちにとって最高の支援です。

